

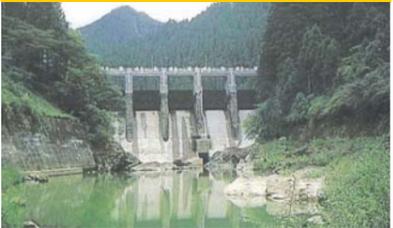
熊野川のダムと発電所

熊野川流域のそのほとんどが山地であり、さらに多雨地域でもあることから、水力発電の適地として注目を浴び、昭和12年に関西電力(株)により九尾ダムが建設されて以来、15年には川迫ダム、戦後になって32年には国土交通省により猿谷ダムが、35年には風屋ダム、37年には坂本ダム、二津野ダムが、39年には池原ダムが、40年には七色、小森ダムが相次いで電源開発(株)により建設された。また、関西電力(株)により、奥吉野発電所(瀬戸ダム、旭ダム)が昭和55年度に完成した。

① 川迫ダム



② 九尾ダム



③ 猿谷ダム



④ 瀬戸ダム



⑤ 旭ダム



⑥ 風屋ダム



⑦ 二津野ダム



⑧ 坂本ダム



⑨ 池原ダム



⑩ 七色ダム



熊野川流域のダム・発電所の諸元

ダム名	川迫	九尾	猿谷	瀬戸	旭	風屋	二津野	坂本	池原	七色	小森
河川名	熊野川	熊野川	熊野川	瀬戸谷川	旭川	熊野川	熊野川	東ノ川	北山川	北山川	北山川
完成年	S15	S12	S32	S55	S55	S35	S37	S37	S39	S40	S40
管理者	関電	関電	国交省	関電	関電	電発	電発	電発	電発	電発	電発
貯水池	湛水面積 (km ²)	0.08	0.15	1.0	0.52	0.56	4.46	2.3	2.59	8.40	3.32
	総容量 (千m ³)	1113	1137	23300	16850	15920	130000	43800	87000	338000	61300
	利用水深 (m)	10	6	24	34	32	30	5	40	35	3.5
ダム	形式	重力式	重力式	重力式	ロックフィル	ドーム型アーチ式	重力式	ドーム型アーチ式	ドーム型アーチ式	ドーム型アーチ式	アーチ重力式
	高さ (m)	36.5	26.5	74	110.5	86.1	101	76	103	111	61
発電所	発電所名	川合	和田	西吉野第1	奥吉野	奥吉野	十津川第1	十津川第2	尾鷲第1	池原	七色
	形式	ダム水路式	ダム水路式	ダム水路式	純揚水式	純揚水式	ダム水路式	ダム水路式	ダム水路式	揚水式	ダム式
	有効落差 (m)	143.3	34.3	231.3	50.5	50.5	144.2	90.0	241.2	225.3	69.3
	最大出力 (kw)	7000	2000	33000	1206000	1206000	75000	58000	40000	350000	82000